**丹後二俣和紙**

かつての丹後国に位置した二俣地区は和紙の主要生産地でした。豊富な水があり、必要な原料を栽培するのに適した条件をもっていました。推定によると、19世紀の終わりまでに、二俣地域の200世帯以上が和紙を作っていたといわれます。その多くは冬の間、副職として製紙を始めた農民たちでした。しかし、洋紙の大量生産が始まり和紙の需要が大幅に減少し、現在、田中製紙工業所は二俣で唯一の業者となりました。

田中製紙工業所は、書道、版画、工芸品に適した様々な種類の和紙を作っています。漆を濾過する作業で使われる非常に薄い濾紙も作り出しています。彼らの紙は、国の文化財の補修にも使用されています。田中家は作業所の近くの畑で楮を収穫し、樹皮は伝統的な製法で加工されます。季節によって、成長した楮や、それらが蒸されたり、干されているところを見つけるかもしれません。隣接する大江町和紙伝承館では、和紙の製造工程や用途に関する解説や展示を行っています。